



No.72 2020.8.26

明石市コミュニティ・スクールだより  
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

# コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課

「和坂っ子桜守プロジェクト」を通して探究学習を考える ～子どもも学ぶ 大人も学ぶ～

3年総合的な学習の時間  
環境体験事業

## 新たな単元構成 ～和坂っ子桜守プロジェクト～

明石市立和坂小学校

### 「学習素材」としてのソメイヨシノ

四季を移ろいから様々な学習要素がある  
●春→満開の花 ●夏→毛虫!? ●秋→紅葉 ●冬→冬芽

#### 身近な生活圏のどこにでもある素材

●明石公園「日本さくら名所100選の地から」  
●生活圏の学校、公園、神社、店舗、工場、街路、個人宅…

#### 人とつながりが見えやすい素材

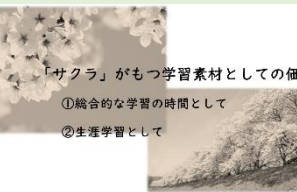
●人の手によって誕生した品物 …餅、信紙、刺繍工夫、被褥  
●人の手によって守られている存在 …共生、有用感

### study:カリキュラム・マネジメント

- ソメイヨシノについて調べ…起源、特徴、春の開花、秋の落葉、展覧(館蔵品下)
- 明石公園のソメイヨシノから見える歴史的背景…70年前の明石、日本、世界
- 桜守の活動について知る…全国展開している桜守活動、樹木園の仕事
- おぼろげに…校区内の桜分布、桜の有産状況や活動、和坂さくら祭りマップ
- 先生の学習…桜と桜守、桜と虫や鳥などの関わり、桜と園路・人・地域
- ソメイヨシノをフィルターとして地域の歴史、これらから考える学習

国語、社会、理科、道徳、園工、音楽、情報、キャリア…  
横断的・多彩な学習展開の可能性

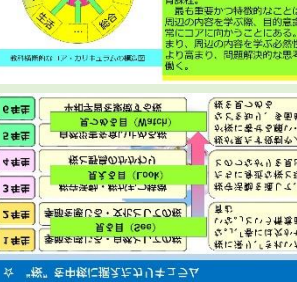
### collaboration:協働・連携



### 「サクラ」がもつ学習素材としての価値

- ①総合的な学習の時間として
- ②生涯学習として

### ☆“桜”を中核に据えたカリキュラム



8月20日に和坂小学校で環境体験学習をベースにしたカリキュラムマネジメントの研修会が開かれました。和坂小はこれまで明石公園をベースに3年生の環境体験学習を行ってきました。和坂小の環境体験をプロデュースされている河合先生は明石公園の特徴として常緑樹が多く四季の変化をとらえにくいということがあります、活動の見直しを考えていたところ、春には強烈な存在感を示すソメイヨシノが公園全体で老いてきている姿に目を向け、また老いたソメイヨシノを守る桜守の活動をされている樹木医さんや桜守ボランティアさんとの出会いの中で、ソメイヨシノをコアにした環境体験の単元を構想されました。ソメイヨシノの歴史・特長から、そしてソメイヨシノのもつ魅力といったソメイヨシノにどっぷり浸りながらソメイヨシノを通して社会を“見る目”“見える目”“見つめる目”を培っていきましょうというものです。3年生だけでなく学校全体で探究学習として取り組む価値があるのではないかと考えています。また、何よりもコミュニティ・スクールとして、子どもだけでなく、大人の学びの場としても広がっていく可能性があると考えています。

そこでこの単元の持つ可能性を本所指導主事が探ってみました。本所指導主事はコア・カリキュラムの視点から“桜”をコアにした教科横断的なコア・カリキュラムが構想できるのではと考えました。各学年で桜に関連した関所的な学習を経験しながら、そこから学年として、学級として、また個人としての課題が生まれ探究が始まるのではと考えています。

環境体験では地域や保護者の支援を得ている学校も多いのではと思います。コミュニティ・スクールでは学校サポーターをという発想になりがちですが、学校づくり＝地域づくりでの協働パートナーであり、学校づくり＝地域づくりを通して子どもだけでなく大人も成長しつづける仕組みがコミュニティ・スクールだと考えています。この学習では単なる支援(お手伝い)ではなく地域の方や保護者の方が、協働学習者(協働探究者)として大人の方も“学び”を楽しみ、生涯学習の場として持続していく可能性があるのではと考えています。そのことは子どもたちも学校だけの学びではなく、地域や社会教育施設を活用しな

から自分の学びを広げていくことにつながっていくと考えています。



すでにそうした学びの広がりが始まっています。朝霧小コミュニティ・スクールでは23日の日曜日に朝霧川観察会が行われました。親子で30名の参加者があり、観察・清掃活動をされたそうです。10年以上指導者ボランティアの方が学校外の学びとして子どもたちだけでなく、保護者も巻き

込みながら定期的に行っていたものを、朝霧小がコミュニティ・スクールをスタートしたのを機に、地域ボランティアさんの手で行われていた朝霧川の観察会や清掃活動と3年の環境体験を「朝霧川をとおしての朝霧のまちづくり」としてドッキングさせたものです。

こうした取組は魚住まちづくり協議会さんでも、金ヶ崎公園を活用して「3年生の環境学習」や「親子自然体験 in 金ヶ崎公園」をずっと続けていられています。探究学習を深化していくためにはコミュニティ・スクールという仕組みを利用し、学びが社会に開かれていくことが必要だと考えています。

### Meet de 研修会 和坂小研修会を Meet 中継にチャレンジ



上記の8月20日に和坂小学校で環境体験学習をベースにしたカリキュラムマネジメントの研修会の様子をオンライン会議システムの Meet を使ったオンライン中継にチャレンジしました。当日つないでいただいたのに参加リクエストを拾いきれないで参加できなかった方もおられ、運営についての課題が浮き彫りになりました。つない

でいただいたのに参加できなかった方には本当に申し訳ありませんでした。

最近、オンラインでの研修会の案内をよく見かけます。経産省の「未来の教室」オンラインキャラバンを始め、これからの学校づくり等をテーマにした講演・対談が開催されています。その場に出かけなくても参加できるメリットや、チャットを通して参加者の考えを知ることができるなど、参加してみると“リアルな場”での研修会や講演会よりも一体感があるように感じます。今回の中継もスマホを Meet につなぎ、その画面を流すという仕組みとしては簡単なものですが、今後デジカメをつないでの中継などチャレンジする価値はあるなと感じています。オンラインを使って学校間で研修会を共有するだけでなく、研究発表会も普段の校内研究をオンラインで公開していくという方法も考えられるのではと思っています。また、コロナ禍の中で、参観等も難しいなか、オンラインでの参観というのも考えられるかもしれません。そして何よりもこうした研修会に地域・保護者の方にも参加していただくことで、目的を共有し同じゴールを目指しての協働が動きやすくなると考えています。



こうした公開の一步も二歩も進んだものが熊本市で開かれました。熊本市では8月25日(火)に「一人1台タブレットを活用した新時代の学び」をテーマとして市長と市立小中学校教諭との意見交換会「市長とドンドン語ろう！学校教育版」が開催されライブ配信されましたが、後日 YouTube で動画が公開されるということです。“学びの見える化”がすすんでいるんだなとビックリしました。オンラインでの具体的な取組等が発表されたりと興味深い内容で動画がアップされたらもう一度じっくりみたいなと思っています。

(文責：北本)